

崇敬されたロイ・スマス先生とスマス館の活用

この春も多くの外国人の方々が日本政府の叙勲を受けられました。ここでとりあげるロイ・スマス先生も今からちょうど50年前の昭和43（1968）年の5月、勲2等瑞宝章（今日では、瑞宝重光章）を受章されました。しかも、この年の5月、先生は「さくら丸」で帰米されましたが、その時に叙勲されることになったのは、偶然ではありません。先生を崇敬敬う教え子たちの尽力がありました。最近では、叙勲は70歳から75歳の方々の基準に与えられるようになっていますが、戦前は60歳を一つの基準年齢にしていました。それもあつて、スマス先生は既に昭和12年5月に勲5等瑞宝章を受けておられます。また、昭和34年11月の神戸大学勤務50周年に際しては、当時の兵庫県知事阪本勝さんが大学の式典に参加され、「兵庫県国際文化賞（第1号）」の表彰状と記念品をスマス先生に渡されています。

先生は、明治36年の来日以来の山口県や東京での中学校や商業学校での外国人教師を辞めて帰国され、その後ニューヨーク大学やシカゴ大学で商学修士と学術修士の学位を得られた上で、明治42年、開校間もない神戸高等商業学校の外国人教師として再び来日されました。先生は、商業英語、英文簿記、貿易実務、英会話などを学生諸君に対する深い愛情をもって教育されました。皆さんは、六甲台の正面階段を登った左側のところにロイ・スマス先生の胸像が建てられていることはご存知でしょう。そ

の裏面は、スマス先生の言葉として「YOUR LIFE IS WHAT YOU MAKE IT」という言葉が刻まれています。そのことは忘れてしまっておられる方があるかもしれません。しかし、この言葉は実に味のある文章になっていて皆さん自身の努力を呼びかけておられます。

1909（明治42）年に神戸高等商業学校に着任された先生は、来年で着任110年ということになります。その間、先生が学生諸君はいうまでもなく、本学関係者にどのように崇められてきたかは、先生の卒寿をお祝いする会で、八木弘学長が躍如として述べておられます。

ロイ・スマス先生のご尽力は、神戸高等商業学校だけに止まりません。大正6年、上筒井中で「善隣クラブ」を開き、中学生だけでなく、上の学校の学生及び一般の人々のために英語を教えてこられました。このクラブは大正13年には、3階建のビルに改築された「愛隣会」となり、太平洋戦争勃発の昭和16年2月まで続きました。また、太平洋戦争が始まったとき、やむなく帰国されました。不幸にして当時在米日本人は全米各地に収容されていました。スマス先生は、そうした日本人たちのカリフォルニア州のマンザーナキャンプはじめ、いくつかのキャンプを巡回され、日本の実情を説明するとともに、抑留されていた日本人を激励してこられたといわれます。また八木学長のご説明によると、従来西部で生活していた日本人たちが、東部または中部に居住するよう勧告されても、住居や職業などで大きな困難を抱えていました。先生は、ご自分が所属しておられたシカゴ教会連盟に居住者部をつくり、こうした日本人たちの

ための住居や職業を見出し、その子供達を学校に通わせるなどの救済までされました。在米日系人達の苦勞は、当時その経験をされ、かつてパルモア学院の理事長をしておられたモース・斉藤さんからお聞きしたことがあります。こうしたスミス先生の活躍は多くの教え子たちを感動させずにはいませんでした。昭和20年の敗戦後、シカゴで開かれた「日本占領に関する討論会」に出席された先生は、占領の短期化を主張されたといわれ、当時の凌霜会員だけでなく、多くの日本人から感謝の念を深くする人になっておられました。

卒寿を迎えられるに当たって、そのロイ・スミス先生が辞職、帰国のご意志を表明されたことを契機に、凌霜会員はそれを記念する銅像の建設と記念品の贈呈とを考えました。「凌霜」誌でも、何回かそれぞれ報告されていますが、記念事業のための基金は目標300万円に対して46年10月で総額347万円強にもなっていました。当時の授業料が1万2千円だったのに対して、今年は52万5千円余りになっていることを考えると、適切な比較とは言えませんが大変な金額であったことが推測できます。ともあれ、叙勲の2カ月前になる昭和43年3月には、スミス先生も尊敬しておられた水島校長と田崎学長の胸像とちょうど三角形となる場所に、スミス先生の温容を偲べる胸像が建立されました。

スミス先生への高い評価は、大学・凌霜会員だけではありませんでした。神戸ロータリークラブがその国際理解と優れた国際協力に対して名誉会員の称号を与えたほか、昭和43年の離日に際しては、日本政府は破格異例の帰国旅費と終身年金の支給

を決定しました。また兵庫県も「県民の鍵」を渡すことになりました。

これほど大きな評価を受けられたロイ・スミス先生は、昭和44年6月3日安らかに91歳で昇天されました。

昭和32年に設立されていた財団法人六甲台後援会は、神戸高等商業学校以来永年に亘って尽くして頂いた先生の宿舍としてのご利用と六甲台社会科学系部局の外国人研究者の長期滞在宿舍、またはゼミ・研究会の場として運営できる建物を探しました。現在の灘区篠原北町4丁目のロイ・スミス館がそれです。この洋館の設計は、御影公会堂、旧神戸生糸検査所（旧館）等の建築で知られる清水栄二氏によるもので、貿易商大谷氏の所有でした。昭和24年から六甲台後援会が購入した昭和34年までカナディアンスクールの女子寮として用いられていたこともあります。建物は昭和10年の竣工で、2階10室、浴室・トイレ付き、1階にも5室、食堂・台所・浴室・倉庫もあり、建物延べ231・3坪、土地531・6坪、立派な庭のある建物です。この建物は、購入後、昭和43年まで先生の住居として利用されました。

先生が帰国されてからは、六甲台後援会の事務室として、また大学紛争時代には、大学が封鎖された後、経理部事務室と紛争時に設けられた広報委員会事務室に使用されてきました。また六甲台社会科学系外国人研究者として来学された研究者及びそのご家族の住居として利用されてきました。ちなみに、いま資料の整っています外国人研究者の宿泊状況を見ますと、平成9年から今日まででも132名の方々が、単身あるいは家族づ

れで宿泊、その出身国は実に多様に亘っています。しかし、年
によっては利用者の数が少ないときもありますし、ゼミや凌霄
会員の皆さんの利用は今迄殆どありません。護国神社の上で、
2系統バスでこられると少し坂道がきついです。しかし、ロイ・
スミス館は、美しい庭に恵まれた「国の登録有形文化財」でも
あり、他都市からも見学に見える人もある建物です。凌霄会員
の皆様や神戸大学の社会科学系の先生方や学生諸君には、これ
からもその活用についてお考え頂ければと思っております。

なお、全く別の話ですが、かつて全米大学のアメリカン・フ
ットボール大会で優勝したワシントン大学の人達が、神戸都市
問題研究所の理事長室を訪問した時に、新野前理事長が記念
のボールを受け取っておられました。ボールにはチーム名の
Huskiesと印されています。現在、そのボールをスミス館に預
かっていますので、近いうちに、大先輩高井恒昌さんからご寄
附頂いた高井記念学生スポーツ会館に、記念品として飾って頂
きたいと思っております。ご報告しておきます。

今回も皆さまからのご寄附有難うございました

毎号この欄で皆さまから頂いているご寄附についてご報告さ
せて頂いています。前号報告以後平成29年度に121万8千円
のご寄附を頂きました。金額別に林嘉貴様（昭33法）から3千
円、此松智秀様（平11経済）、小坂田幸男様（昭33経済）、孟暁
東様（平29国際協力研究科）、中宣好様（昭33経済）、榊原洋司
様（平5経済）から各5千円、阪田慎之介様（昭38経営）、清水
秀男様（昭41経済）、神谷忠秀様（昭36経済）、多田貞三様（昭

33法）、門野豊雄様（昭33経営）、松岡茂雄様（昭33経済）から
各1万円、杉田文夫様（昭36経済Ⅱ）から2万円、奥村智加男
様（昭35経済）、山本誠二様（昭34経済）から各3万円、中上仁
平様（昭33経済）から5万円、根岸哲様（昭40法）と大久保裕
晴様（元経済学研究科教授・樹自然総研社長）から各50万円を
ご寄附頂きました。

平成30年度になってからは大川為三様（昭33法）、石原謙一
様（昭33経済）、笹部哲生様（昭33経営）、永井吉彦様（昭33経
済）、鷺尾正昭様（昭34経営）、東條喜代子様（昭33法）から各
3千円、土井義彦様（昭33経営）から5千円、魚住時弘様（昭
33経営）、北條英和様（昭33経営）、三好保弘様（昭33経済Ⅱ）
から各1万円、増池徹彌様（昭33経営）から1万5千円、山田
敏行様（昭33経営）、吉田昭彦様（昭32経営）から各2万円、三
宅基治様（昭44経済）、山藤正直様（昭33経済）、大和正彦様（昭
33経済）から各3万円、四谷實様（昭33経済）から3万3千円、
廣瀬駒雄様（昭34経営）、森清晴夫様（昭33経営）、鶴浩一様（昭
32経済）、瀬野鋼太郎様（昭46経営）から各5万円、小林哲夫
様（昭33経営）、横内昭様（昭34経営）から各10万円、高崎正
弘様（昭34経営）から50万円ご寄附頂いております。

こうしてお名前を拜見すると、この中には何回もご寄附を繰
り返し頂戴している方が何人もいらっしゃることにお気付の方
も多いと思いますが、本当に有難いことです。厚くお礼申し上
げます。おかげで、本号で新たに報告できる寄附金額は234
万9千円になりました。平成16年にあらためてご寄附のお願い
をするようになってから、これで3億4,592万円余になり

ますが、大学の革新が必要になってくると思います。今後ともどうかよろしくご協力の程お願い申し上げます。

ちなみに、平成23年度から28年度までに支出された事業費は計2億7,800万円で、その主な内訳は次のようになっていきます。教員の海外派遣9,518万円、学部学生教育6,189万円、大学院学生教育4,831万円、学術交流施設の維持2,328万円、学術研究成果の助成1,623万円、学術研究助成1,421万円、学会・シンポジウム等開催1,214万円等々です。これでもお判り頂けるようにおかげさまで神戸大学内の他学部の実情に比べると格段の助成にはなっています。しかし、旧帝国大学には、自然科学系、医学部系の研究所が複数、大学によっては10以上もありますし、しかも全学部が予算増を伴った大学院大学になっています。その点、残念ながら神戸大学には自然科学系の研究所はありません。また、名称だけは全ての旧学部が大学院となり、旧帝大と同じ大学院大学になりましたが、しかし、社会科学系大学院を除いては大学院大学としての財政支援を受けていません。従って、全予算が文科省の大学院大学予算化している旧帝大などに比べると相当な格差を甘んじなければなりません。しかも各学部の位置づけに依じた、それぞれ異なった財政支出がなされていた従前とは違って、全予算が学部の一括配分の対象となるようになった法人化以降は、以前とは違った計算根拠をもつようになることも考えられます。京大・阪大の総長などが法人化以来、同じ旧帝国大学でも東大との格差が大きくなったと言われることがありますが、旧帝大とはまた違った形の格差が生じていることは理解しておかねば

なりません。その意味でも、今は六甲台後援会が創設された時に似たような客観的情勢が生れています。この格差は、皆さんからの基金だけで埋めることは難しい面もあります。しかし、大学自身の変革と私達の努力で少しでも前進しなければなりません。皆さん、母校の充実と発展のために更なるご支援をお願いします。

毎回お願いしています寄附金の送り先は左記の通りです。よろしくお願い申し上げます。

◎銀行送金の場合（銀行からの連絡が遅く、領収書送付が遅れないようにするため、お葉書でも電話・FAXでも結構ですから、送金のことについて事務局にご一報ください）

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金 4069496

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合（通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください）

口座番号 0098019116772

口座名義 公益財団法人神戸大学六甲台後援会

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

公益財団法人神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX (078) 861-3013

E-mail: rokodaifund@kobe-u.com